

デンタルハイジーン 別冊 傑作選

ポイントを押さえてスキルアップ！

チェアサイドの アシスタント ワーク

小森朋栄
編著 遠山佳之
高橋英登





1. 医療従事者に必要な接遇

東京都杉並区・井荻歯科医院 筋野真紀 (歯科衛生士)

歯科医院に求められる「接遇」とは、来院されるすべての患者さんが不安や苦痛を感じることなく十分な治療を受けられるよう、医院におけるさまざまな環境づくりをすることといえるでしょう。ただ単に相手を敬っていいいに接することや必要以上のサービスを提供するのではなく、相手の気持ちを思いやり、やさしさや気遣いの心をもって接するようにしましょう。

基本の流れ

どんなときでも、「やさしさ・思いやり・適度な笑顔」をもって患者さんに接することを忘れないようにしましょう。人は不安を感じているとき、笑顔でやさしく接してもらえると気持ちが和らぐものです。患者さんと接す

る時間の長い歯科衛生士は、医院のイメージを決定づける存在でもありますので、医療従事者として患者さんによい印象を与えられるよういつも意識しましょう (図 1, 2)。



図 1 歯科医院のイメージ
医療従事者として患者さんに与える印象を意識する

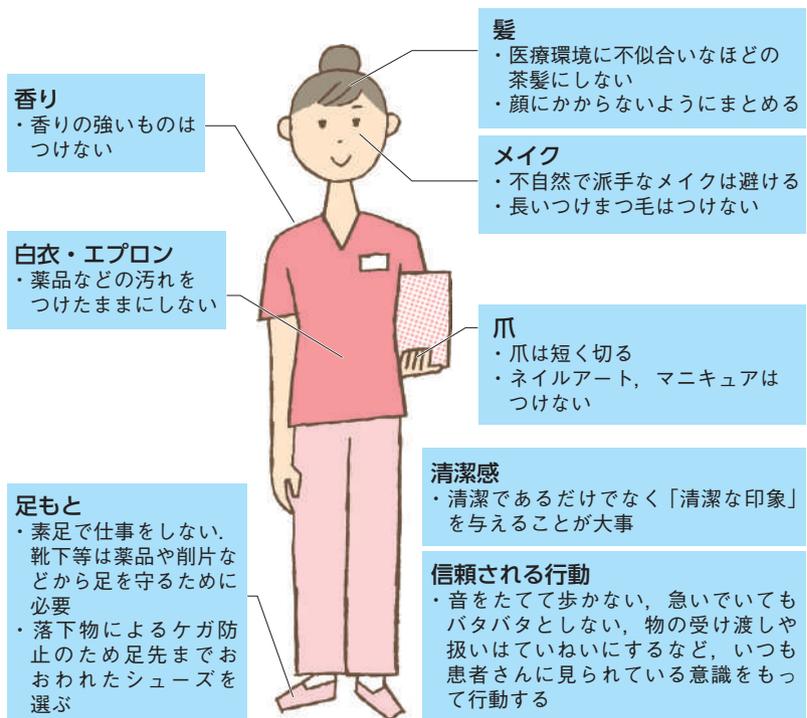


図 2 医療従事者としての身だしなみや行動のポイント、注意点



1. 診療の準備

東京都杉並区・井荻歯科医院 小林純子(歯科衛生士)

診療室の環境を整えることによって、スタッフの無駄な動きを減らし、スムーズなアシスタントワークが可能となります。「安全な医療」「感染予防」を第一に、清潔な診療室を維持することをつねに心がけ、朝の準備の段階から整備することが、患者さんの安心にもつながります。

基本の流れ

① 環境を整えよう！

① 待合室、受付(図1)

患者さんをはじめにお迎えする場所です。毎朝(または診療終了後)の清掃は欠かせません。つねに目を配り、整理整頓と清潔な環境を保ちましょう

- ・本や雑誌を整える(図2)
- ・お手洗い、洗面所の清掃(図3)
- ・床拭き
- ・歯ブラシ、歯間ブラシなど販売グッズの補充、整頓など(図4)

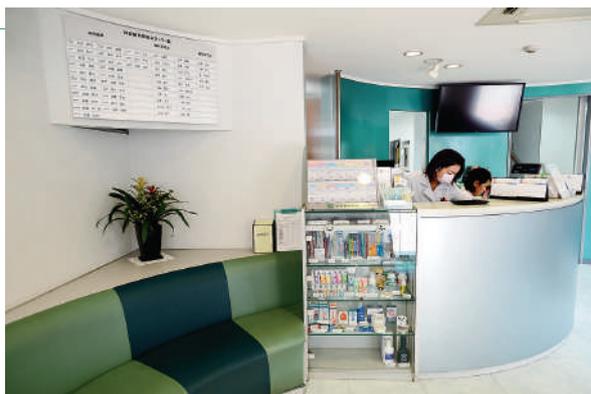


図1 歯科医院の顔となる受付・待合室



図2 本は患者さんが読めばすぐに乱れるので、頻繁な整頓が必要



図3 他の人が使った痕跡は、流しの水はねでも不快に感じる人が多い



図4 販売グッズを補充し、見やすく整頓する

臨床上の
ポイント

③ 金属調整時のポイント

金属を切削するときは摩擦熱でも熱くなります。近距離から集中して、シリンジを動かさないようにしてエアを当てましょう(図7)。

インレーやクラウン調整の場合、

エアによりそれらを飛ばしてしまうことがあります。歯科医師が、インレーが歯型から飛ばないように押さえているのか、それとも切削部位や研磨程度の確認のために指を離して

いるのかを確認しましょう(図8)。指を離しているときに強圧のエアをかけると、当然インレーが飛んでしまいます。

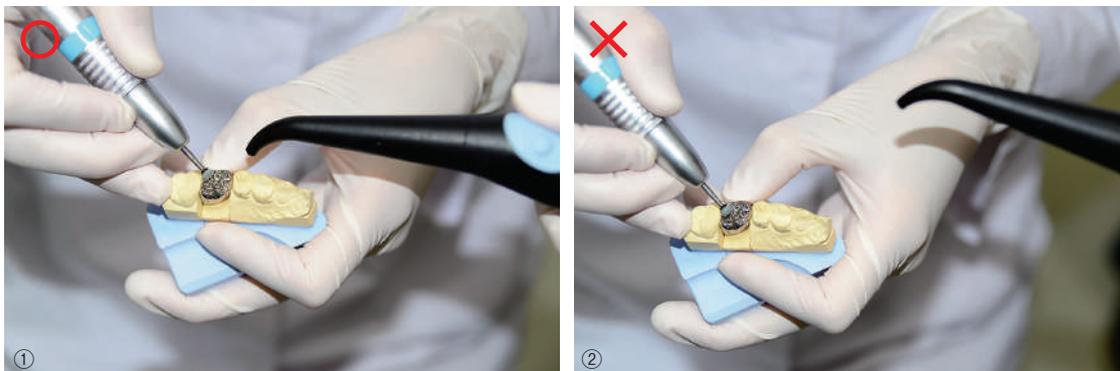


図7 金属には①のように、近距離から集中してエアを当てる。②はエアを遠くから当てているため冷却効果が低い

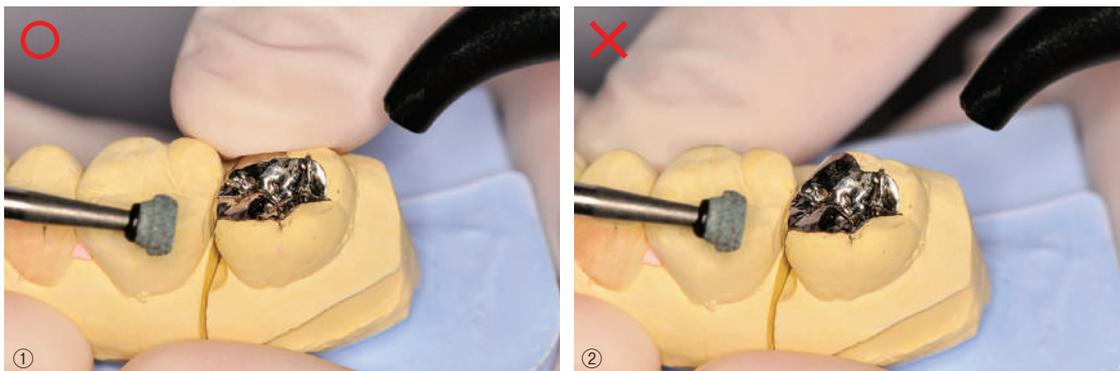


図8 歯科医師がインレーを押さえていないとき(②)にエアをかけると、インレーが飛んでしまう



もしインレーが飛んだら、慌てずに目で追って落下地点を確認してください。歯科医師にはそのような習慣が身につけていますが、二人で追ったほうが確実です。患者さんの前でインレーを探するような失態は避けなければいけません。みつけたら患者さんに気づかれないように黙って拾い、消毒してください。

これで差がつく

良好な視野を確保しよう

顕微鏡治療では、視野の確保が難しい部位があります。その際には、視野を妨げているもの（口唇、頬粘膜、舌など）をアシスタントがミラー等で排除します。たとえば、上顎頬側の場合、頬粘膜の排除は、視野確保、頬粘膜の巻き込み防止という2つの役割を果たします（図3）。下顎舌側の場合、嘔吐反射に注意しながら舌の排除を行うことで安全な治療が行えます（図9）。また、上顎前歯唇側形成時のように、術者が、右手にタービン、左手に器具を持つ場合は、アシスタントが口唇の排除を行うと良好な視野が得られます（図10）。

図9 ミラーでの舌の排除



図10 排除しているバキュームが、視野を妨げることがないようにモニタで確認する



さらにSTEP UP!

処置部位以外にも気を配ろう

アシスタントには、視野が狭くなっている術者に代わり、全体を見る目配りが必要になります。その際には、患者さんが長時間の治療で疲労していないか、開口時間が長くなり顎がつかっていないか、視野確保のために使用しているミラーの辺縁が、歯肉に当たって痛みを与えていないか（図11）など、アシスタントがいかに患者さんの思いを汲みとった気づきと声かけができるかで、顕微鏡治療に対する患者さんのイメージは変わります。顕微鏡治療におけるアシスタントの気配りは、非常に大切な仕事です。

図11 ミラー辺縁が歯肉に当たる痛みは予想以上に大きい





1. 印象材の種類・取り扱い

静岡市葵区・遠山歯科医院 遠山佳之 (歯科医師)

印象採得は補綴物の製作などに必要不可欠な作業であり、その精度が最終的な補綴物の精度や模型による診断の結果に大きく影響します。印象材の種類ごとの特徴を知り、正しく扱うことが、アシスタントに求められています。

基本の流れ

印象採得には、研究用模型・診断用模型などを得るための「概形印象」、作業用模型などを得るための「精密印象」の2種類あります。

診療室でよく使われる印象材とそのおもな使用法は以下のとおりです。

① 印象材の種類

①アルジネート印象材

- ・単独で概形印象、有床義歯の印象、対合歯の印象などに使用
- ・寒天印象材との連合印象による支台歯を含む歯列の印象に使用

②寒天印象材

- ・アルジネート印象材との連合印象による支台歯の精密印象に使用

③シリコーン印象材

- ・パテタイプとインジェクションタイプなどの連合印象

による支台歯等の精密印象に使用

- ・個人トレーとインジェクションタイプなどによる有床義歯の精密印象に使用

② 使用方法

①アルジネート印象材

分類上は概形印象材ですが、正しく使えばかなり精密な印象採得が可能です。硬化時間は温度に強く影響されますが、冷水で練和すると知覚過敏がない患者さんでも歯髄に痛みを感じることがあります。季節に合わせ水温による硬化時間を考慮して粉末を選択し、手早く練和するのが一番です。寒天印象材との連合印象の場合は、術者とのタイミングに注意しましょう。

ほかの印象材にも共通しますが、印象採得前には患者さんに印象採得の経験をお願いしておくと嘔吐反射の情報を事前に得ることができます (p.95 参照)。以下にアルジネート印象材による一般的な印象採得の手順を示します (図 1)。



①印象採得の準備

口角炎や口唇にひび割れがあれば、ココアバターやワセリンを塗布する。小児では嘔吐反射が頻発するので、必要に応じて嘔吐物を受ける容器を用意しておく



②トレーの試適

患者さんの口腔に合ったトレーを試適する (p.96 参照)。トレーは斜めにして口腔内に挿入する



③舌挙上の練習

下顎の印象採得であれば、舌を挙上する練習をしてもらう

図 1 印象採得の手順